

# Tomorrow

— 5年後に50周年をむかえる協会の将来構想 —

協会設立45周年にあたって、コロナ禍で協会の活動も転機を迎えている中、5年後の50周年に向けて、様々な取り組みの将来構想を考えてみたい

## 砂浜から、自然を身近に

文 中村 恵弥 (砂浜観察会)

「砂浜観察会」は、微小貝プロジェクトチームを前身に、2020年度から活動しているグループです。

貝だけではなく、打ちあがった漂着物や砂浜の生き物など、砂浜を取り巻く環境全般を捉えることを目指しています。砂浜は、日が違えば打ちあがっている貝の種類も量も様々です。また、砂浜の出来た経緯によっても違うし、地形も変わっていきます。実に奥の深いフィールドです。

### 砂浜観察会の今

本観察会のこだわりとしては、前半は砂浜で貝などを拾い、後半は室内などで落ち着いて、じっくり観察する時間を設けることです。

海での観察会は、潮が引いているわずかな時間を使います。時間が来るとその場で見つけた生き物を離して、解散してしまうことが多いのですが、なんと貝殻や漂着物は、逃げ出したり、時間が経っても弱ったりすることがないのです！砂浜で過ごした後は、近くの室内施設を借りて、主に「標本箱づくり」を行っています。黒い画用紙に拾った貝などを並べ、名前を調べてラベリングをしたり、図鑑で調べたり、講師の先生への質問の時間としています。拾った貝を使った工作などをすることもあります。

フィールドでの自然体験と、マイ標本箱づくりによる振返りを1セットで行うことで、観察会がより一層色濃くなると思っています。

### ねがい

ところで、一般的に思い浮かぶ身近な砂浜に、海水浴場があるのではないのでしょうか？私もその1人で、波打ち際ばかりで遊んでいました。が、砂の方に目を向けると…小さい貝やウニ、ヒトデなど、宝物がたくさんあります！暖かくなると海浜植物の花が咲き、カニを狙って鳥が来ます。貝殻の美しい模様や形に心奪われ、どんどん拾ってしまいます。海水浴場は、電車でのアクセスもよいところが多く、あまり海に関心のなかった人にとっても気軽にマイフィールドにしてもらえんと思います。砂浜での自然体験を通して、自然の魅力や楽しみを広め、身近な海や自然を、愛おしいと思える仲間が増えることを願っています。

最近では、SDGsという言葉も特別ではなくなりましたが、やはりまだまだ生活に浸透したものにはなっていない印象です。更に「自然保全」と聞くと、難しく思う人も少なくないでしょう。保全協会は、人と自然をつなぐ「きっかけづくり」をする、いわば案内人のような存在であってほしいです。



何が落ちてるかな？ (写真：渡邊 淳一)



これは何かな？ (写真：渡邊 淳一)